

そろばん会から珠算学校

——二十二年のあゆみ——

そろばん会から珠算学校二十二年のあゆみ

山崎 茂男

一、福生そろばん会誕生

大東亜戦争といわれたあのいくさの終わりで、復員兵のはしくれとして生家へ帰り着いた私は、まもなく福生そろばん会を始めた。

私の生家のすぐ裏が、いまの福生第一小学校で、家業を手伝うかたわら、よく校庭を眺めていた。

遊びにくる子どもたちの中に、荒れたグループがあつて、便所のガラス窓に石を投げて遊んでいた。そんな子どものおせっかいをしていたところ、小学校時代の恩師、山崎彦尚先生（現・青梅一小校長）に、「おまえのような毛色の変わったのが、先生をやったらおもしろかろう」とすめられて、その一小のわか教員になった。しかし、教員は肌に合わずと一年たらずで退職をしてしまった。

その以前。子どもたちへの関心から、むかし小学生当時、そろばんのけいこをした仲間に、そろばんをとおしての子ども会を呼びかけた。が、誰れもが、そんなことにかまっていられる時代ではなかった。ただ、その声を聞きつけた二、三の青年が「役場につとめたがそろばんができなくて困っている。山崎さん教えてくれ」といつてきた。

それで福生そろばん会を発足させた。

昭和二十二年三月八日、福生第一小学校の玄関すぐ左の教室に、男十三人、女十六人の青年が集まった。

裸電球のうす赤い光が、ボンヤリと三つ四つづるさがつていて、火の気のない寒い教室だった。そのときのような、今でもはっきりと目の前に浮かんでくる。

当日は、山崎彦尚先生と先生の教え子の橋本さん（戸倉）が講師で出席され、福生小教諭の岩下伴蔵先生（現・福生五小校長）も、うしろに控えてくれていた。

三月九日

練習開始

同十一日

小学校同級生の鳥海三江、高崎秀子、武内達子さんたち（小学生当時三級合格）が応援出席。

同二十五日

小学生のころ、競技会などで顔を合せた青梅市の久保木、原島、中村さんなど応援出席。

同二十九日

法政大学の友人、松岡慶助先生（巣鴨女子商業高校教諭）が、はるばる特別講師で出席された。岩下先生からは、会の記録をつくっておくようにと助言された。

五月九日

進駐軍の夜間外出が始まり、夜間の授業を心配の事態となった。お互いが十分の注意をして出席することを話しあう。

六月二日

そろばん会へ、福生中の生徒五名が入会を希望。中学生、初の会員となる。

六月二十三日

福生小教諭の金井清先生が応援出席。

六月二十九日

商工会議所珠算能力検定試験受験のため、試験場の東京大学へ行く。当時は、年一回の試験、東京の試験場はここ一カ所。

七月十日

検定成績発表、次の諸君が、そろばん会三級合格第一号となった。

遊佐栄子、細谷米子、大塚和子、白井君江

七月十八日

小学生のための珠算夏期講習会を開催。参加者六十六名。

七月二十三日

そろばん会会報（月報）第一号発行。

七月二十八日

福生中学校第一回珠算競技会が開かれ、その運営を金井先生と手伝う。

八月二十三日

福生そろばん会、第一回珠算競技会開催。

審査員には、松岡先生の先生である、藤田晃司先生（大進珠算学校長）が特別に出席された。

小、中学生の会員もふえてきた。

当時、百六十円くらいの私の月給（小学校教員）は、ほとんどその会へ使ってしまった。会員の父母からは「山崎さんに世話になるのでお礼だ」といって、大根やなつぽを届けられた。そんな心配をされるよりはと、会員から月に五円ずつの会費を集めはじめた。

七月のそろばん会競技会には、藤田先生、松岡先生という、都内でも一流の珠算教師が、その先生の優秀なお弟子たち数人を連れてこられて、福生の人に珠算の模範演技を公開してくれた。

福生の人をはじめて、一級所持者の暗算や読上算を目の前にして驚嘆した。「神技じゃなあ」とため息がもれた。

八月二十七日

会員の遠足で、与瀬方面に出かけた。

二、教室建設

昭和二十三年三月二十日

福生小学校舎を出て、青年団本町会館を教室に借りる。

当時、他のいくつかの団体から小学校の夜間借用申し入れがあったらしい。町では、これらの使用を断る方針で、そのためそろばん会も小学校の教室を出なければならなかった。

同 三十日

本町会館が内部改装で、長沢会館に移る。

四月二十日

長沢会館も改装が始まり永田会館に移る。

四月二十七日

本町会館の改装が終わり、そこへかえる。

五月九日

そろばん会父母会を開催。

千田良映先生（日本大学講師）が経済講演をされた。

この父母会は、多数の父母が出席して、盛会だった。松岡先生のお骨折りで、千田先生の福生での講演も実現した。

これを機会に、そろばん会の中へ簿記講座を設け、前記の藤田、松岡両先生のほかに長谷川

章先生（都立向島商業高校教諭）という一流講師陣を組んだ。これだけの先生の陣容は、当時都内の簿記学校より充実していた。

この先生方は荒川区である。当時の交通事情はひどいもので、先生方の福生までの往復は大苦勞だった。私もときどき先生方のお供をしたが、電車はたびたび故障し、駅から駅へ歩かせられることも多かった。

また、この父兄会で、子どもたちには、佐藤三郎さんの紙芝居が好評だった。

佐藤三郎氏（志茂在住）は、当時、役場の一職員であったが、子どもに関心を寄せていた。慰めとてない当時の子どもへ勤務後の時間を紙芝居を見せて歩っていた。

子どもたちに人気のあったその紙芝居を、当日、実演してもらったのである。

七月二十四日

福生町職場対抗珠算競技会を主催。

昭和二十四年八月

そろばん会の会員は徐々に増した。

当時、西多摩郡下では、そろばんを教える所は他になかった。

氷川から、五日市から、瑞穂から。電車で自転車で、青年が、中学生が、そして中年の勤人

男女も福生へ集まった。

しかし、会場が借家のため、会場の都合で突然休業もたびたびあった。遠くからかけた人には、申し訳ないと頭を下げるのが辛かった。

幸い、私が父親からもらっていた家が一軒あったので、それを売り、また、父兄の森田惣助氏のご協力もあって現在の志茂の地に教室を建てた。

その教室が八月に完成し、移転して、私は珠算の指導が職業となってしまった。

自分の教室がもてたことで学習の方法も自由に組めた。

当時の会員が、勤労青年男女が主体であったことで、これらの人と話し合い、教養講座も開いた。

昭和二十五年七月

このときには、次のような修養講座を、当時の福生中学校の先生におねがいをした。

いまのようにテレビもないし、図書などに飢えていた人たちに、大変よろこばれた。

また、そのころは珠算の別科生（社会人クラス）が非常に多く、その人たちから大変感謝された催しものだった。

土曜日、午後七時半より九時半まで（経費不要、先生方も無料奉仕）
文学について（詩を中心として）

山崎愛治先生

音楽鑑賞

秋山三雄先生

青年の心理

白井武一先生

社会科

村上直先生

昭和二十六年八月現在で福生町外からの本校への通学生分布状況は、西多摩村（四〇）多西村（一五）東秋留村（一五）西秋留村（四）青梅市（四〇）吉野村（二）三田村（四）氷川町（二）拝島村（三〇）昭和町（一二）五日市町（一二）平井村（一五）という状況だった。

（ ）内は人数

遠くから通う生徒

（二十七年の座談会）

司会「塾へゆくのに福生の人は遠いといってもたいしたことはないわけで、夕方のちょっとした時間を利用して勉強しているわけですが、今日ここへ集まった人はちがいます。非常に遠くか

らもう一年以上ここへ通い、九〇%以上の出席率で通っているわけです。今日はその様子などお聞きしたいと思います。

まず、通学時間はどのくらいかかりますか。

平井「自転車でも急いでも三十分とちょっとかかります。学校から歩いて二十分で家へ帰り、それから自転車なので疲れるけど毎日なのでなれちゃった」

霞「東青梅の駅から乗るので、電車は十五分くらいだけど、篠田さんと私は駅から家まで四十分くらい歩きます」

三田「吉田さんは沢井駅で沢田さんは石神前です」

三田「私は家から駅まで十五分ぐらい。四時四十分には電車に乗り、ここへ五時五十分につきます。七時に授業が終わって家へつくと八時半ぐらいです」

司会「通うだけで、勉強する時間の倍以上かかってますね。平井の人は自転車で大変ですね」

平井「冬は泣きたいようです。家の人は休めというが休みたくありません」

霞、三田「私たちが駅で待つときは冬は泣きたいようです。福生の駅はとても寒い」

昭和二十七年六月

福生そろばん会初の、一級合格が出た。
細淵米子君（福生中三年生）だ。

三、福生珠算学校が認可された 昭和二十九年三月

教育の場として、必要な条件のすべてをそなえなければと考え、東京都認可の珠算学校の申請をし、東京都下二番目の珠算学校として公認された。

名称は、福生珠算学校とした。

そして、五月の珠算月報は、その記念号を発行した。

その中に、祝辞として戴いた恩師、山崎先生の一文です。

開校を祝す

吉野小学校長 山崎彦尙

山崎君が珠算教育を始めてから、八年の月日が経っている。終戦直後、町の同年輩の青年たちが、その虚脱状態の中で、夜遊びに精力を消耗しているのを嘆いて、余暇の善用から自分たち青年が立直って行こうとの情熱から、第一小学校の教室を借りて、珠算同好の青少年を集め

たのが、恐らく最初であったと思う。ついで青年クラブへ移り、人数も最初の二十人足らずから百人前後に増し、同好の会からすすんで、規律を保ち、責任をもったそろばん会に発展し、更に飛躍して福生珠算学校となった。山崎君の仕事は、一面飛躍的發展をとげつつある福生町の繁栄にも応ずるものがある。

今では町の教育機関の一つとして数えられるようになったことは、誰しも異論はないであろう。その間に、幾多の教え子が、各方面の職場に送り出され、それぞれの立場から社会に貢献している。

すでに基礎が確立している塾が、各種学校の一つとして、内容と形式とを整え、法の秩序と保護のもとに、堂々たる発足をして行くのである。その当初を顧みて、山崎君としても感慨無量であろうし、又校長としての責務も痛感されていることであろう。

山崎君が指導の対象としている青少年の大部分は、義務教育過程にある小中学生である。今まで、山崎君が義務教育遂行の上に、塾教育を即応させようとした努力は大変なものであった。

今後の珠算学校の経営に当たっても、義務教育優先の立場から珠算学校の運営を考えることがいっそう痛切になってくるであろう。珠算学校生徒の、関係小中学校の教育方針と実態とをよ

く尊重し、それらの学校の教育を側面から有効に推進させる熱意は山崎君は十分に持ち合わせている。その努力が傾倒されるところに、珠算学校は今後いよいよ発展するであらうし、有為の職場人を送り出すことに、なお期待をかけられるであらう。

そろばん会開設のはじめから珠算学校開校まで、山崎君の不拔の決意と情熱と明敏な手腕を熟知している私は、とり分けて今日の喜びを友人として、ともに祝いしたい。

昭和三十年二月

瑞穂の北田巖君は自転車に通っていました。帰りには、道の両側からおおいかぶさっている雑木林の街道がこわくてびくびくかよいました。

ある雪の日に、寒さにふるえて家へ帰りつくと、心配して待っていたお母さんがとび出して自転車をしまつてやろうとしました。それをみていたお父さんはお母さんを叱りつけて、「自分で通うといいだしたことだ。そんなに甘やかしてはいけない」といったそうです。

北田君は、がんばりとおして本校四人目の一級に合格しました。

昭和三十一年九月

熊川分教場を開設した。

この前年、珠算帰りの少女が、痴漢に襲われるという事件があった。この年にも、熊川方面で、それに近い問題が起こった。

父母の間に不安がつより熊川に分教室をとの声が強く出た。万一、これ以上の不幸が起きてからではと、熊川分教場の開設を決意した。

熊川地区、野島茂雄氏などのご協力で、熊川分教場がはじまった。

昭和三十二年二月、社会人学級を開設

珠算学校発足十周年を記念して（そろばん会当時より）本校教室を使って、社会人学級を開いた。

このときは、その主旨に賛同されて、朝日新聞社がこのことを同新聞都下版に大々的に報道してくれたりして、各方面から注目を浴びた。

このときは学校の先生方のほかに、町の有志の方で特別な技能の持主にも講師をうけもっていただいた。（敬称略）

1 絵の話——五十嵐祥晃

- 2 若い人の問題——清水恒雄、園花フジ
- 3 養鶏の話——細谷利夫
- 4 仮名づかい——関根三木
- 5 そろばん一級公開——本校生徒
- 6 郷土の話——木村東一郎
- 7 釣りの話——水谷清一
- 8 昔の教育今の教育——野島カヤ、田嶋定雄
- 9 お母さんと若い人の語りあう会
- 10 青少年の犯罪講座——岸上東三郎
- 11 謡曲の会——中川敏孝
- 12 郷土の話——小野沢博一
- 13 ガリ版刷り——中松 勝
- 14 少年のころ——鮎沢信太郎
- 15 町長さんを囲んで——秋山誠一
- 16 おとなのそろばん——本校

昭和三十三年四月

書道の内田満蔵氏などと、福生町文化連盟を提唱。本校がその準備の会場となって活動し、この月、連盟発足の式を本校であげた。

会長に鮎沢信太郎文学博士、副会長に水谷清一、木住野元一氏が決まった。

昭和三十六年十月八日

町の文化面開発と、珠算教育に尽力したということで、福生町初の一般表彰を受けた。

表彰状

山崎茂男殿

貴殿は福生町文化向上並びに珠算普及のため多年に亘り尽されこれが育成に寄与されましたその功績は洵に大であります

よって茲に町表彰条例により記念品を贈り表彰いたします

昭和三十六年十月八日

西多摩郡福生町長 瀬古清蔵

というものだった。自分がお世話になっているその町の皆さんにほめられたことで、私としては、最大の感激であった。

(終)

福生珠算学校 紙上父母会開催

(一九六七・四)

はじめに

山崎 茂男

何年か前までは、この珠算学校でも八月を父母会の月とし、直接皆さんとおあいして意見交換をしてきました。

が、最近皆さんもご多忙で出席をして頂くのも大変のようです。

それで、月報紙面を通じての父母会にきりかえて実施しているわけです。

今回もどうぞよろしくおねがいします。

なお、ここに出されたご意見については、よく検討の上、珠算学校運営の上に生かしてより一層の指導実績をあげていく所存です。

交通安全 片ときも忘れずに

本町 田中さん

私としては次の点で先生にお願いしたい。

- 1 通学上の交通安全、片ときも忘れぬこと。校内の適当な箇所に、常々心がける交通安全標語など貼って、無言の注意もさせる。
- 2 ただし、標語の効果は常々新味ないと効うすいゆえ、月に一度は新しいものにとりかえる。
- 3 標語は、生徒自身創作したものがよい。

本町 田中さん

長沢 佐藤さん

交通問題に大いに関連することで、中学生の通学時間を考慮してもらいたい。

中学生になってクラブ活動で学校がおそくなるせいであわてて帰ってきてそのまま珠算にか

けつける。そんなことで交通事故にあわぬようにしてもらいたい。

答 子どもたちは、珠算通学時間が夕方ということで、解放感が強いようです。それで、銀座

通りの歩行状態が悪いことなど、ときどき皆さんから指摘されています。もちろん私どもも一層注意をしますが、皆さんもその場ですぐに、子どもたちに教えてあげていただきたいと思います。

中学生の時間の問題も、よく考えます。

通学方向によつては、中学の帰りに珠算によるというような方法もありますが、一つの面は、新学期早々、中学生になりたてでクラブ活動などに慣れていない面もあります。そこらについては中学校ともよく相談して、対策をたてていきます。

ここで中学生の通学についてあと一つお願いします。それは、珠算学校で生徒手帳の所持とかその他の印刷物での連絡などの家庭連絡をやっていますが、中学生ともなると、とかく子ども自体も親も無関心になりがちです。夜間通学はなにかと誘惑なども考えられます。出席の状態や時間など。小学生の時以上におたがいに注意をしていきたいと思っています。

入学早々ですが

本町 清水さん

- 1 通学時間ですが、授業開始に三十分おくれたらあとの半端の時間しか、勉強できませんか。
- 2 いままで通学した人の例で、学校の勉強に珠算が大いにプラスしたということはありますか。
- 3 帰宅してから、家でも少しやらせた方がいいですか。

答

1 本人が希望すれば、おくれてきた分だけ後の組でやってもらいます。だいたい半分以上たつてからきた場合は、残ってもらいます。

2 通学したてからしばらくは、算数学習の復習というような面もありますので、プラスの面が多いと思います。しかし、上級になっていくと、そういう面は少なくなると思います。ただ、珠算学習をその面からでなく、精神的なものから見ていただければ、自分で努力した、そこから体得した自信を他の学課にも及ぼしていく、そんな例は多いと思います。

3 帰宅してからはやる必要はない、と生徒にはいってあります。そのかわり、珠算の教室ではボンヤリするなど、きびしく指導しています。

通学時間に悩み

牛浜 高崎さん

珠算の時間が、ちやうど夕食にぶつかり、本人も勉強中おなががすいて困るといっています。

長沢 石田さん

小学生の場合は、おそくとも五時ごろまでにしてもらいたい。家に帰って、学校の宿題や予習もあるし、早く就寝させるなど実行させているので。また、おそくなったら、同一方向の者を集団下校させるなどの指導をされたい。

熊川 川島さん

自分の組まで外で待っているのに、雨の日や冬の寒いときなどかわいそうです。それに待っている生徒ががやがやして、中の勉強中の者に迷惑ではありませんか。

答 珠算学習の時間については、いろいろ苦心していますが、効果的な授業ということでも今の方法になってしまします。大変でも、女生徒の場合など途中まで出迎えてもらうようなご協力をお願いします。

ただ、こちらで決めている組分け、時間などいっさいが動かせないわけではないので、そこらについては、個人的に私どもにご相談してください。学校にいて、珠算の時間を気にしたりすることのないよう、おそくなくてもあわてずにくるようよく生徒に伝えてはいます。

待っている生徒のことですが、時間をよくみて出てくるように強い指導をしていますので、

心配は少なくなっています。

加美 内田さん

自転車通学者にも注意してください。夕方なので、おとなも急いでいますから危険が多いのです。無灯火はいけませんね。二人乗りもときどきみます。また、通学のさい、不必要なお金をもたせないことです。

答 自転車通学は、この紙上で子どもの意見もよく聞き、検討しました。なるべく徒歩でくること。どうしても乗ってくる者は、いまの内田さんのご注意のような点を守って、自分の責任で通学することと、決めました。

半年も同じ級で進めません

熊川 小村さん

同じ級のまま半年も一年も進めない場合、どんなふうにしたらいでしょうか。家では忙しくて見てやれませんが、どこが悪いからと特別注意をしてください。

答 休んでばかりいて、試験のときだけくる大学生のような子いますが、そんな子には出席

を気をつけていくことですみます。

毎日、熱心だが進めない子もたしかにいます。しかし、そういう子は、頭では理解ができているのです。ところが試験となると、緊張してしまうのです。そういう子の一つの原因に、家の人から、「どこの誰れにくらべて、お前はバカだ」なんて、くらべっこばかりされている場合があります。

また、小学上級生なのに、九九がよく出なくて、それでなかなか追いつけない子もいます。でも、そういう子は、試験は悪くても、暗算や読上算はうまかったり、また、日ごろのこつこつした努力で、ある一つの時期に急に進んでいく場合が多いのです。

だから、本人が一生けんめいの場合、いまのところ進み方が少しおそくても、暖かい目で見守ってあげてください。

その点では、珠算学校では、担当のほかに大学生や高校生の助手の人を多く配して、十分な指導に心がけていますので安心してください。

志茂 志村さん

昨日、珠算学校へ迎えにいったら欠席しているということでした。あとで本人に聞きました

ら、友だちの家にいて時間を忘れたとかいっていましたが、五級がなかなか受からなくて意欲をなくしているようです。

答 五級から四級ぐらいの時間が一番つらくてまたあきのきている時期です。途中退学していく生徒も、この辺がほとんどです。

このつらい時期を自分の力で乗りこえていく、その苦しみも何かの体験になっていくのではありませんか。

その時期は特に、お家と珠算学校と連絡をとりあって、当人に無理のない努力をさせていきたいと思います。電話などで、どんどん私どもの方に相談してください。

永田 細谷さん

検定試験は、どのくらいから受けさせたいのですか。また、青梅と福生のしけんは、どちらがうのですか。

答 本当は八級からある試験を段階的にやっていくのがいいのですが、教室では、三級からは全員受験すること。それ以下の級はあくまでも個人の希望にしています。

三級をいきなり受験しても、受験場には、独特のふんいきがありますので、五級か、または

四級ぐらいからはほとんど受験してみても、場所慣れしたほうがいいとすすめています。

また、受験能力があるかどうかという点は校内試験の点数が、合格点にかなり近くなったら積極的に受験してみた方がいいと思います。

青梅と福生の試験というのは、商工会議所施行検定が試験場が青梅。商工会施行が福生なので、便宜的にそう呼んでいるわけです。

この二つの試験は、問題の程度や実施の方法、審査規則など、ほとんど変わりません。

ですから、どちらも同じと言えますが、ただ世間の評価は、戦前からの伝統をもっている商工会議所検定が、ほかにいづくかある検定試験ともくらべて、最高の権威をもつものといわれております。

熊川 森田さん

うちの子どもは、三級は小学五年生でパスしたのだが、現在中学二年生にして、まだ二級がとれていない。中学一年のときは、伝票があと一題だけで惜しくも不合格だった。校内試験ではたびたび合格しているのに、どういうわけだろうか。親も子も迷った。そこで親としての結論を出した。

「くじけるんじゃない、がんばることだ。いますこしの努力だ」と子どもを励げました。

アリナミンやビオタミンよりよく効く薬は、何んといっても、親の理解ある励げましの言葉であろうと思った。

(終)